

水から始まる世界の輪

宮大附属中一年

岩本

愛加

みなさんは、人間が使用できる水が地球上にはどれくらいあるか知っていますか。

私はよく「節水を心がけましょう」という言葉を耳にします。しかし、実際は水道の蛇口をひねれば節水とは関係なく、どんどん水は出ます。そこでふと疑問を抱きました。いつまで私達は不自由なく水を使うことができるのだろうか、ということですね。無限にある

はずはないと思っただけで調べてみることにしました。

地球上の三分の二は水であり、その約97%は海水のため、生活用水には不向きであることがわかりました。その上、残りの3%は淡水なのに、すが、その多くは南極や北極の氷です。人が利用しやすい河川や湖の水源に限定すると、全体の0.01%しかありません。つまり、私達が飲み水や生活用水として利用できる水は、地球の大きさからの割合にすると、た

たスポーツ一杯分しかないのです。水が出て
当たり前だと思っただけのこと。人は、人にも
重大な重要な問題だと知り、声を失ってしま
いそうでした。

もつと調べてみると、世界的な水不足が発
生しており、約22億人の人が安全に管理され
た水を使用できていないこともわかりました。
多くの人々が湖や川から水を確保しており、不
衛生な水を飲むことで沢山の人が命を落とす
ていることも知りました。それをも生きてい

くためには泥水のような状態でも摂取してい
かなければならないことは、世界中の課題だ
と思います。

また、水を汲みに行くために多くの時間を
費やしているのは、主に子どもであり、その
子達は一日の大半を水汲みの往復で終えてい
ます。これまでは「たかが水」と考えていま
したが、水の確保のためにどれだけの時間を奪
われるのかと思うと日本でも暮らす私には考え
られません。

水の大切さを痛感しているのは私だけではなく、世界中の誰もが同じことを考えているのではないのでしょうか。

みなさんはSDG、SとDという言葉をよく耳にするようになったと思います。これは、持続可能な社会にするために2015年と2030年までの15年間で世界共通の目標として達成すべきゴールのことです。目標は十七個あり、水に関する目標もあります。それは、目標六つ目の「安全な水とトイレを世界中に」というもので

す。世界のどこにでも安全な水の設備を設置するため、私達にできることは何かを考えました。お小遣いの中から募金をする、家庭や友達との会話の中で、水問題を話題にする、少しでも考えることで水を大切にすべが芽生え、いつか行脚を起す時の原動力になると思います。

水に関する課題はまだあります。それは、気候変動です。近年、自然災害の発生件数が増えています。異常気象による降水量の変化

が大きく、洪水や干ばつが起こりやすくなっ
 ているのです。洪水が始まると、土砂崩れが
 発生しやすくなり、人々の生活に様々な危険
 をもたらします。その上、人間だけなく、
 地球上の生物における生態系にも影響がで
 います。急激な気候変動を少しでも防ぐため
 に二酸化炭素の放出を減らしていかなくは
 なりませぬ。ゴミの分別をきっちりすること
 で、燃焼時間を短縮することが出来ます。リ
 サイクルすることによってエネルギーの節制に努め
 ます。

温暖化に歯止めを掛けていくことも出来ます。
 どちらにも積もれば山となる山と同じように、
 コツコツと一人一人が続けることが大切です。
 水は限りある資源であり、私達の生活に欠
 かせない大切なものです。川を汚水にしな
 いためにも、薬剤の使用や生活排水の節水に
 かけることも考えていく必要があると思いま
 す。水問題の影響を真つ先に受けるのは、発
 展途上国の立場の弱い子ども達です。毎日を
 懸命に生きている子ども達がいることをしっ

かりと心に重く受けとめて、日本の豊かな水
に感謝の気持ちもちながら生活していきな
いと思ひます。